

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 12 月 25 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20241058

研究課題名（和文）地中海島嶼社会の経済社会ネットワークと地域研究の方法と視角

研究課題名（英文）A Research on Socio-Economic Network in Mediterranean Islands and Critical Survey on Area Studies.

研究代表者

大月 康弘（OTSUKI YASUHIRO）

一橋大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：70223873

研究成果の概要（和文）：地中海世界の歴史において人びとの活動の重要拠点となった「島嶼」に注目し、自然・生態環境に規定された人々の生活・経済空間としてのマイクロエコロジー圏、および当該マイクロエコロジー圏が対外世界と切り結んだ経済社会ネットワークの構造分析を行った。政治的、人為的に設定され認知されてきた「地域」「海域」概念、および歴史的統一体としての地中海世界の存在論にも批判的検討を加えた。

研究成果の概要（英文）：We investigated the roles and implications of Socio-Economic Networks between Mediterranean islands. The results of our research were as follows: firstly, data collected concerning to habitants' daily lives, secondly, analysis of their attitudes toward the outer world of their own island, thirdly, careful survey on the implications of historical and contemporary investigations on so-called "Mediterranean World".

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	12,200,000	3,660,000	15,860,000
2009年度	10,700,000	3,210,000	13,910,000
2010年度	9,000,000	2,700,000	11,700,000
2011年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
年度			
総計	38,000,000	11,400,000	49,400,000

研究分野：経済史、地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：地中海、海域、ヨーロッパ、イスラム、ギリシャ、エジプト、スペイン、イタリア

1. 研究開始当初の背景

F・ブローデルの『フェリペ2世時代の地中海と地中海世界』（1949）は、地域／海域研究に多大な影響を与えた。それは、歴史学、地理学、政治学、社会学など、19世紀以来の諸学を総合し、国民国家の枠組みを前提とする学問態度を超えて、時代を見通す視座を提示した。ただ、「地中海世界」なる実体の措定は、議論の余地のあるところであった。ブローデル以後、多くの「地中海域研究」が生

まれたが、本研究は、これらの「地中海世界」をフィールドとした海域／地域研究の射程と限界を論じながら、「地中海世界」における経済社会ネットワークの実相を抉り出そうとした。

2. 研究の目的

既存の海域研究全般を批判的にサーベイしながら、「地中海世界」における経済社会ネットワークの実相を調査、研究することを

目的とした。そうすることで、地域／海域研究に新たな視点を加えようと企図した。

3. 研究の方法

(1) 図書資料分析と聞き取り調査

地中海域研究の方法を検証するために、関連する諸文献を蒐集し、解題を蓄積した。ナクソス島（ギリシャ共和国）、マルタ島（マルタ共和国）、イビサ島（スペイン王国）、および「陸の島嶼」としてのエジプト共和国オアシス地帯をサンプルとして取り上げ、現地インフォーマントより彼らの経済的・社会的ネットワークについての聞き取り調査を実施するとともに、同調査を補完するために、関連文献のサーヴェイを行った。

(2) 統計

現地インフォーマントよりの聞き取り調査を補完するために、統計資料でのマクロの状況把握も行った。これにより、各国政府等が行うデータ管理のあり方についても批判的検討を行うことを企図した。

(3) 地図を活用

インフォーマントを「主体」として措置し、サンプル地点を中心とする人的ネットワークの展開のあり方を、できるだけ地図上に可視化することを試みた。

(4) ワークショップでの討論

CERES（2009年3月、チュニジア共和国チュニス市）、およびトリエステ大学（2010年9月、イタリア共和国トリエステ市）で国際ワークショップを開催した。海外の研究協力者を含む関係研究者が集い、それぞれの研究成果を報告して、方法論および成果取り纏めについて議論を深めた。

4. 研究成果

スペイン、イタリア、ギリシャ、トルコ、エジプト、チュニジアの各フィールドに即して、各地域での島嶼社会コミュニティの現状を分析した。

主な論点は、島嶼社会が対内的・対外的に切り結んだ(1)社会関係、(2)経済関係、(3)対外関係、である。研究メンバーが、それぞれの分担領域を中心に調査し、分析し、2冊の欧文論集(Mediterranean World 20 (2010), 21 (2012))に取り纏めた。

本研究では、インフォーマントに即した具体的なマイクロデータの蓄積に主力が置かれたものの、総じて以下の認識を共有するに至った。これは「地中海世界論」に繋がる一般的「地中海世界」像であるかと思料される。

(1) 島嶼社会は、現代にあっても緊密な対内的人間関係を留保している。農地利用などに見られるように、所有権が厳密に個人に帰されることはなく、広い「家族」集団によって土地保有がなされ、また地域社会によって、その用益が享受されている。特に放牧地にあ

っては、家畜の自由な移動によって、厳密な土地区画概念が希薄であった。

(2) 各島嶼コミュニティで観察された家族ネットワークのあり方は、およそ「地中海的人間関係」を代表していると思われた。すなわち、島嶼外に移住する家族成員が、都市部および外国に展開している。その連絡は緊密に行われている。外国への通信も頻繁である。域外転出者が（特に夏季には）島嶼に戻って滞在するケースも多い。かかるケースの摘出からは、それらを20世紀の各地域の歴史のなかに置くことで、より立体的な歴史叙述が可能になる、と歴史学方法論上の可能性も感得された。

(3) 経済活動については、各島嶼社会の置かれた自然環境との関係で、個別具体的に論じられなければならない。農地、放牧地、地中海沿岸コミュニティにあっては漁業、と、生業パターンは単純ではない。また、もちろん1960年代以降は、観光業も大きな展開を見ている。20世紀後半以降の各島嶼コミュニティの経済活動基盤の変化は、今後とも観察、分析されてしかるべき観点と思料された。人類学者が、各地域の「伝統社会」の記述を行ってはいるが、「近代化」に伴う「生活基盤の変化」は、なお分析対象とされてはいない。また、EU統合に伴う経済制度の変化と地域経済の変容も、論点とされるべきである。本研究では、この近時の「変容」について十分な調査を行うことはできなかった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計22件）

① KATO, Hiroshi and NISHIMURA, Michiya, The Monetary History of the East Mediterranean in the Middle Ages as Judged from Imitated Coins. Mediterranean World 21、査読無、2012、3-20

② KATO, Hiroshi, Reconsidering al-Maqrizi's View on Money in Medieval Egypt. Mediterranean World 21、査読無、2012、33-44

③ MISAWA, Nobuo, The First Japanese Who Resided in the Ottoman Empire: the Young Journalist NODA and the Student Merchant YAMADA. Mediterranean World 21、査読無、2012、71-88

④ TAKENAKA, Katsuyuki, Recuperación del Núcleo Histórico de Reus como Espacio de Centralidad. Mediterranean World 21、査読無、2012、89-112

⑤SAITO, Hiroumi, The Value of "Practica di Mercatura" as a document of Economic History. Mediterranean World 21、査読無、2012、113-128

⑥ KAMENAGA, Yoko, Medieval Genoese Colonial Society Viewed from an Analysis of their Colonial Testaments Part 1: Testators and their Bequests. Mediterranean World 21、査読無、2012、129-137

⑦NAGASAWA, Eiji, Comparing Two Egyptian Revolutions: 1952 vs. 2011. Mediterranean World 21、査読無、2012、267-281

⑧OTSUKI, Yasuhiro, Pioneer of Byzantine Studies in Japan: Late Prof. Kin-ichi Watanabe's Works, Mediterranean World 21、査読無、2012、295-300

⑨齊藤寛海、ペゴロツティの商業実務とバドエルの元帳、Accounting, Arithmetic & Art Journal (日本パチョーリ協会雑誌)、No. 24、査読無、2012、2-12

⑩大月康弘、ビザンツ史から見える世界史の地平——帝国・教会・個人、〈第31回史学会大会特別講演会記録〉、史友(青山学院大学史学会)、第44号、査読無、2012、1-27

⑪石井隆憲・三沢伸生、近代スポーツ・メディアとアジア民族に関する覚書、『アジア文化研究所研究年報』46、査読無、2012、355-358

⑫三沢伸生・大澤広嗣「在日タタール人と日本の学界との接点」、『アジア文化研究所研究年報』46、査読無、2012、327-354

⑬竹中克行、イタリア・カリアリの都市空間にみる広場文化の創出、共生の文化研究、6、査読無、2012、179-198、<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/tabunka/journal/index.html> (PDF)

⑭竹中克行、地中海の「普通」の町を発見する(連載 地中海都市カリアリから考える「普通」の町の再生1)、地理 57-4、査読無、2012、88-95、<http://www.kokon.co.jp/5704-m.pdf> (PDF)

⑮大月康弘、(新刊紹介) Meier, Mischa (Hrsg.), Justinian. Neue Wege der Forschung. Darmstadt, Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 2010.、西洋中世学、査読無、第3巻、2011、199-200

⑯長澤榮治、エジプト1月25日革命を考える—「腐敗」をキーワードにして—、中東研究、511、査読無、2011、39-47

⑰長澤榮治、二つのエジプト革命、国際問題、査読無、2011年10月号、2011、19-28

⑱長澤榮治、エジプト第二共和制への道は敷かれたか、現代思想、39巻4号、査読無、2011、94-99

⑲加藤博、エジプトの村落地図、一橋経済学、査読無、4巻1号、2011、131-172

⑳加藤博、「革命」の前後でエジプト国民の政治意識はどう変化したか、東洋文化研究所紀要 160、査読有、2011、259-322

㉑竹中克行、建造環境に埋め込まれた遺産の保護・活用をめぐる問題—タラゴナ(スペイン)上手地区の再生、都市地理学、6、査読有、2011、19-34

㉒竹中克行、地域主義と民族集団、加賀美雅弘編『EU』(世界地誌シリーズ3)朝倉書店、査読無、2011、77-91

[学会発表] (計18件)

①大月康弘、現代世界とビザンツ史—世界史への視座・日本からの視点、愛知学院大学文学部、2012年度特別講演、2012年11月9日、同大学日進キャンパス

②大月康弘、戦後歴史学とビザンツ史、日本ビザンツ学会第10回大会、2012年3月30日、一橋大学

③TAKENAKA, Katsuyuki, Recuperación de la montaña japonesa a través del río、学術講演会(招待講演)(Centro de Estudios e Investigaciones Turísticas)、2012年3月8日、Universidade de Santiago de Compostela (Spain)

④竹中克行、地理的視点から考える都市水辺空間の可能性—名古屋・中川運河の再生運動に寄せて、県立2大学教員研究交流会、2012年2月14日、愛知県立大学

⑤NAKAJIMA, Yumi, About dialects: Macedonia and Okinawa、筑波大学大学院・国際交渉力強化プログラム、2012年2月7日、筑波大学

⑥三沢伸生、アジア主義とイスラーム主義の交錯、国際シンポジウム「戦前日本の対回教

圏政策とトルコ、2012年1月28日、東京外国語大学

⑦大月康弘、ビザンツ史から見える世界史の地平——帝国・教会・個人、青山学院大学文学部史学会第51回大会、招待特別講演、2011年12月10日、同大学渋谷キャンパス

⑧齊藤寛海、ペゴロッティの商業実務とバドエルの元帳、日本パチョーリ協会(招待講演)、2011年12月10日、拓殖大学

⑨竹中克行、遺産政策における歴史的環境のマネジメント——タラゴナ(スペイン)の文化財に関する建築許可申請に注目して、人文地理学会、2011年11月13日、立教大学

⑩三沢伸生、内藤智秀とイスラーム、日本中東学会公開講演会「庄内からイスラームを考える」、2011年11月12日。山形県酒田市総合文化センター

⑪加藤博、経済のグローバル化とエジプト繊維産業、アジア政経学会2011年度全国大会、2011年10月16日、同志社大学新町キャンパス

⑫竹中克行、中川運河——現在を生んだ空間、未来を紡ぐ場所、中川運河チャンネルアートProject No.One, 基調講演(招待講演)、2011年10月9日、岡谷鋼機第三倉庫(名古屋)

⑬大稔哲也、エジプトを生きるイスラーム教徒とコプト・キリスト教徒---2011年エジプト「1月25日革命」までの歩み、藤女子大学キリスト教文化研究所講演会、2011年10月1日、藤女子大学(札幌)

⑭TAKENAKA, Katsuyuki, Vivir la montaña japonesa: Bosque, agua, kami, 学術講演会(招待講演)(Escola Universitària de Turisme i Oci)、2011年9月20日、Universitat de Rovira i Virgili (Spain)

⑮竹中克行、パートナーシップによる地中海都市・衰退地区の再生、京都大学地域研究統合情報センター共同研究「ヨーロッパにおける複合的国家の歴史的展開と現状比較」、2011年6月25日、早稲田大学

⑯大月康弘、ビザンツ帝国と「第2のローマ」論—帝権の座所とその移転、日本西洋史学会第61回大会 小シンポジウムI 中世ヨーロッパ世界にとっての「ローマ」第3報告。日本大学文理学部、2011年5月15日

⑰ TAKENAKA, Katsuyuki, Estandarització

del japonès: Entre la recerca d'un patró comú i l'apropament de la llengua escrita a la parlada, Simposio "Lo Standard Linguístico: Esperienze e Processi", 2011年4月15日、Università degli Studi di Cagliari (Italy)

〔図書〕(計13件)

①中島由美、朝倉書店、日本語学大事典(佐藤武義、前田富祺編): ロシア・東欧の方言学、2013、出版確定

②中島由美、朝倉書店、日本語学大事典(佐藤武義、前田富祺編): バルカン言語連合、2013、出版確定

③大月康弘、知泉書館、ヨーロッパ中世の時間意識(甚野尚志・益田朋幸編)、ビザンツ人の終末論——古代末期における世界年代記と同時代認識、2012、374頁(pp.5-25)

④マキアヴェッリ著・齊藤寛海訳、岩波書店、フィレンツェ史 上・下巻、2012、544・560頁

⑤長澤榮治、平凡社、エジプト革命 アラブ世界変動の行方、2012、262頁

⑥長澤榮治、平凡社、アラブ革命の遺産、2012、606頁

⑦長澤榮治、国書刊行会、アラブ民衆革命を考える(水谷周編) エジプト1月25日革命は何を目指すか、2012、272頁(pp.98-135)

⑧大稔哲也(共編)、三元社、死者の追悼と文明の岐路 2011年のエジプトと日本---エジプト・日本学術交流シンポジウム報告論集、2012、168頁

⑨OHTOSHI, Tetsuya (eds. with S. Shimazono) Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo、Commemorating the Dead in a Time of Global Crisis: Egypt and Japan in 2012、2012、159頁

⑩MISAWA, Nobuo (ed.) Tokyo: Asian Cultures Research Institute, Toyo University, Tatar Exiles and Japan、2012、IV+48頁

⑪中島由美、大修館書店、世界の文字を楽しむ小事典(町田和彦編)、第1部-1 スラヴ世界を二つに分ける文字の物語、2011、276頁(pp.20-25)

⑫中島由美、大修館書店、世界の文字を楽しむ小事典（町田和彦編）
第1部-6 言語の数だけルールがある、2011、
276頁(pp.124-128)

〔その他〕

ホームページ等

<http://wakame.econ.hit-u.ac.jp/~areastd/mediterranean/index.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大月 康弘 (OTSUKI YASUHIRO)
一橋大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：70223873

(2) 研究分担者

加藤 博 (KATO HIROSHI)
一橋大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：10134636

坂内 徳明 (BANNAI TOKUAKI)
一橋大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：00126369

中島 由美 (NAKAJIMA YUMI)
一橋大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号：20155732

齊藤 寛海 (SAITO HIROMI)
信州大学・教育学部・名誉教授
研究者番号：00020628

立石 博高 (TATEISHI HIROTAKA)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：00137027

長澤 栄治 (NAGASAWA EIJI)
東京大学・東洋文化研究所・教授
研究者番号：00272493

大稔 哲也 (OHTSOSHI TETSUYA)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号：10261687

三沢 伸生 (MISAWA NOBUO)
東洋大学・社会学部・教授
研究者番号：80328640

亀長 洋子 (KAMENAGA YOKO)
学習院大学・文学部・准教授
研究者番号：40317657

堀井 優 (HORII YUTAKA)
同志社大学・文学部・准教授
研究者番号：70399161

竹中 克行 (TAKENAKA KATSUYUKI)
愛知県立大学・外国語学部・教授
研究者番号：90305508

(3) 連携研究者

松木 栄三 (MATSUKI EIZO)
静岡大学・名誉教授
研究者番号：

三浦 徹 (MIURA TORU)
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授
研究者番号：00199952

栗原 尚子 (KURIHARA HISAKO)
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授
研究者番号：80017623

臼杵 陽 (USUKI AKIRA)
日本女子大学・文学部・教授
研究者番号：40203525

勝田 由美 (KATSUTA YUMI)
工学院大学・工学部・准教授
研究者番号：80286666

黒木 英充 (KUROKI HIDEMITSU)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号：20195580

堀内 正樹 (HORIUCHI MASAKI)
成蹊大学・文学部・教授
研究者番号：10209281

岩崎えり奈 (IWASAKI ERINA)
共立女子大学・文芸学部・准教授
研究者番号：20436744

青山 弘之 (AOYAMA HIROYUKI)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授
研究者番号：60450516

飯田 巳貴 (IIDA MIKI)
専修大学・商学部・専任講師
研究者番号：00553687